香川の医療最前線 594

四国こどもとおとなの医療センター整形外科医長　嶌村将志氏

20年先見据え選択を

人工股関節

術後の定期検診も重要

◆しまむら・まさし　2008年香川大医学部卒。香川大学病院、北海道整形外科記念病院などを経て、22年から現職。整形外科専門医、人工関節学会認定医、日本スポーツ協会公認スポーツドクター、医学博士。富山県出身。40歳。

年齢とともに増加傾向にある股関節の痛み。その改善策として人工股関節を選択する人も増えている。だが人工股関節にさえすれば、先々も安心というわけではない。10年、20年先を見据えた治療について、四国こどもとおとなの医療センターの嶌村将志整形外科医長に聞いた。

―股関節痛の仕組みは。

軟骨がすり減り、関節の隙間が狭くなることで炎症が起き、痛みにつながる。代表的疾患が変形性股関節症で、国内の患者数は100万人以上と推定される。子どもの時の発育障害の後遺症が主な原因だが、最近は高齢社会となり、特に原因となる病気にかかったことがなくても、年齢とともに発症することがある。

―変形性股関節症になると、どんな治療を。

まずは保存療法から。痛み止めや動作訓練、運動によって、痛みが改善し病気の進行を遅らせられる人が3分の1程度。3分の2の人は病気が進行してしまい、痛みが強くなる。そうなると手術が選択肢となる。手術は年齢や進行度によって関節温存手術と人工股関節手術がある。人工股関節手術は、保存療法や関節温存手術で改善を望めない人が対象で、あくまでも最終手段と考えている。

―人工股関節とはどんな物か。

チタンやステンレスなどの金属製で大腿骨に埋め込むステムと、軟骨の代わりとなるポリエチレン、金属製や樹脂製のカップで成り立っている。将来ずっと安泰というわけではなく、埋め込んだステムがゆるむなどの破たんリスクがあり、特に40～50代は活動性が高く高齢者と比べて高いため、リスクも大きい。

―どんな手術になるのか。

人工股関節の固定方法には大きく分けて、アクリル樹脂の一種である骨セメントを使って固定する方法と、セメントを全く使わないセメントレスとがある。

セメント固定では、大腿骨に埋め込んだステムの周りをセメントで固めるため、日常活動や衝撃、骨の変化による緩みや骨折が生じにくい。長期成績はセメント固定の方が良好、との海外の調査結果も出ている。

―それなら皆、セメント固定を採用しているのか。

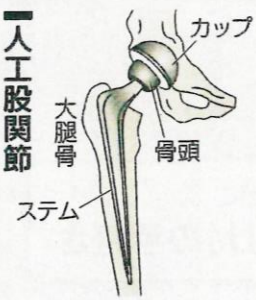
そうはなっていない。2017年度の調査では、日本ではセメントレス86％、セメント固定14％と、セメントレスが圧倒的に多い。理由として00年ごろに技術革新があり、それ以前と比べて緩みがぐっと減ったというのもあるが、やはり、セメントレスの方が手術が比較的容易だからではないか。セメント固定だと、手術中に血圧の変動に注意する必要がある上、手術自体にもセメントを正しく扱う技術が求められる。

―患者側はどんなことに留意すればいいのか。

長期的なことを考えると、人工股関節にはセメント固定かセメントレスかを選べる病院であるかも大事。もし先々に破たんが起きて再手術することになった場合は、セメントが使われるケースが多い。そうした面も病院を選ぶ参考にしてもらえれば。

―どうすれば破たんのリスクを低くできるのか。

定期的な検診が大事だ。年月がたつにつれ検診に行かなくなりがちだが、異常が発生していても、痛みが出ず気付かない人もいる。年に1度を目安に必ず受けてほしい。



人工股関節

■ 四国こどもとおとなの医療センター
整形外科

人工股関節については、長期の良好な成績が証明されている手術、機種の選択を行っている。また、他院で人工股関節手術を受けてから、病院を受診されていない方の検診や治療も受け付けている。

所在地　善通寺市仙遊町2丁目1の1
電　話　0877（62）1000
https://shikoku-mc.hosp.go.jp/